

第 4 章 区別計画

1 総 論

（ 1 ）区別計画の目的

区別計画は、各区役所とその区民とが将来ビジョンを共有し協働しながら、安心・快適で活力のある地域社会づくりを進めるために策定する。

（ 2 ）区別計画の構成

区の将来ビジョン

区の特性・動向の認識のもとに、計画期間の 10 年後を想定した目指すまちの姿を示す。

区の主な施策の基本方向

区の将来ビジョンの実現のために、区内で取り組む主な施策の基本方向を示す。

圏域ごとの主な施策の基本方向

日常生活圏としての一体性、土地利用や都市機能等の地域特性、将来的な課題や発展方向などが類似する圏域ごとに、特性・動向の認識のもと、主な施策の基本方向を示す。

（区ごとの圏域一覧）

青葉区： 都心地域、 都心周辺地域、 丘陵住宅地域、 愛子および周辺地域、 西部山岳丘陵地域

宮城野区： 都心および周辺地域、 丘陵住宅地域、 北部住宅・田園地域、 東部住宅・産業・田園地域

若林区： 都心および周辺地域、 郊外住宅地域、 産業・交流地域、 田園・海浜地域

太白区： 南部拠点地域、 名取川右岸地域、 丘陵住宅地域、 太白山周辺地域、 秋保地域

泉区： 北部拠点地域、 泉ヶ岳および西部田園地域、 丘陵住宅地域、 北部産業地域

区の地域区分図

土地利用や交通・都市機能等の都市空間形成の方向、圏域の区分などを図示する。

青葉区

(1) 区の将来ビジョン

区の特性と動向

- ・ 青葉区は、都心から船形連峰の山形県境まで、北西方向に帯状に広がる本市最大の区（面積約 301 平方キロメートル）である。商業・業務等の東北を支える多様な都市機能が集積する「都心地域」、それを取り囲むように広がる「都心周辺地域」、住宅団地等が続く「丘陵住宅地域」、ＪＲ愛子駅・宮城総合支所周辺などを中心に商業・業務機能等の整備が進む「愛子および周辺地域」、雄大な自然に恵まれた「西部山岳丘陵地域」からなる、さまざまな魅力にあふれた区域である。
- ・ 青葉山や広瀬川などの豊かで多様な自然、伊達政宗公による仙台開府以来の数々の歴史的資源や伝統文化、賑わいと憩いをもたらす公園・通りなどがあり、これらが格調の高い都市空間、風格のある景観等を生み出している。いずれも青葉区にとどまらない市民共有の財産であり、仙台のまちの個性・魅力を高める重要な核となっている。

(概況)

- ・ 都心に交通の要衝・仙台駅があり、区内を地下鉄南北線、ＪＲ仙山線等が通り、平成 27 年度には地下鉄東西線が開業する予定となっている。藩政時代からの歴史を伝える史跡や、杜の都を象徴する公園・通りなど、区内には観光スポットも数多く、都心やその周辺地域は、仙台七夕まつりや SENDAI 光のページェントなどの四季折々のイベントや祭りが開催され、人々が集い、賑わう交流拠点となっている。西部は、雄大な自然に囲まれた作並温泉や定義などの観光資源に恵まれている。
- ・ せんだいメディアテーク、博物館、科学館、天文台、青年文化センターなどの教育・文化の創造・発信施設や、国際センター、福祉プラザなどのコンベンション・交流機能を有する施設が数多くある。
- ・ 区内においては商業、工業、農林業など各種の産業が営まれているが、特に卸売・小売業、サービス業、飲食店・宿泊業の割合が高く、商業の市全体に対する青葉区の割合は、事業所数・従業員数で約 3 分の 1、年間商業販売額では約 2 分の 1 に達しており、青葉区が仙台の商業の中心地であるといえる。近年、市中心部への買い物客が減少しており、仙台の顔、東北における広域的な交流拠点としての魅力や賑わいの創出を図っていくことが求められている。

(人口)

- ・ 平成 22 年 7 月 1 日推計人口で、人口 285,834 人、140,656 世帯であり、区制施行以来、人口・世帯数ともに増え続けており、特に近年は都心地域や愛子および周辺地域において増加傾向にある。また、青葉区の昼間人口比率は他の区と比較して圧倒的に高く、昼間人口は夜間人口の約 1.5 倍となっている。
- ・ 市全体と同様に、青葉区においても、少子高齢化に伴い高齢者の数や人口に対するその割合が増加している。さらには、高齢者の独居世帯や高齢者のみの世帯が増えてきており、今後、団塊の世代も加わって、高齢化が加速することが確実であることから、

こうした状況を踏まえた対応やまちづくりが不可欠となっている。

- ・ 少子化が進む中であっては、特に、子どもたちが元気に育ち未来を担う社会人に成長していくことが大切であり、そのための環境を整えていくことが重要である。
- ・ 区内には大学や専門学校等が多数設置されていることもあり、年齢別人口をみると、20代、30代の人口が他の年齢層よりも多く、青葉区は若者が集まる地域といえる。この特性を生かしたまちづくりを考えていくことが求められる。

（地域づくり）

- ・ 青葉区は、多くの人々が住み、また、観光や仕事で訪れる人も多く、交流や経済活動の盛んな地域でもあることから、住民の生活やさまざまな交流・活動の安全安心を確保していくことが求められる。
- ・ 価値観の多様化、少子高齢化の進展、学生や通勤者などの単身世帯が増加する中で、地域に関わる課題も複雑化・多様化し、市民一人ひとりの取り組みだけでは解決が難しい問題が増えてきている。住民の暮らしの安心を確かなものとするためには、地域で共に暮らす人々が、地域のことを自ら考え、協働して地域づくりに取り組むことが求められる。

区の将来ビジョン

青葉区における特性と動向を踏まえ、区の将来ビジョンとして、3つの目指すまちの姿を掲げ、「区民参画」を推進力として、目指すまちの実現に向けて取り組んでいく。

「交流と活力にあふれ未来に歩み続けるまち」

仙台を支える多様な都市機能を持ち、賑わいと交流にあふれ、進化し続けるまち

「みんなで支え合い共に元気に暮らせるまち」

誰もが尊重し合い支え合いながら、安心して健康で明るく暮らすことができるまち

「杜の都の誇りを次代につなぎ高めていくまち」

豊かな自然、歴史的資産や文化、魅力ある都市景観を次代に継承し価値を高めていくまち

《 区民参画のまち ～まちづくりの推進力～ 》

目指すまちの実現のため、市民、地域団体、事業者、行政など、さまざまな主体・あらゆる区民の力を結集し、区民参画を通じた連携・協力により取り組んでいくものとする。特に、青葉区の特性を踏まえ、地域、高齢者、若者の力を生かしたまちづくりを中心に推進していく。

（２）区の主な施策の基本方向

青葉区の「将来ビジョン」実現のために取り組む主な施策の基本方向は次のとおりとする。

「交流と活力にあふれ未来に歩み続けるまち」をめざして

（都市機能等の充実・強化）

- ・ 東北・仙台都市圏の交流・活力の拠点に相応しい、商業・業務機能、観光コンベンション機能、芸術文化の創造・発信機能などの多様な都市機能の更なる集積・強化を推進し、交通便利の向上と相まって都市活力を生み出すことができるよう、都心を中心とした各種の都市基盤の充実強化を図る。
- ・ 仙台的玄関口である仙台駅周辺について、地下鉄東西線の整備に合わせて、交通機関の乗り換えの利便性の向上など、都心の交通環境を整備する。
- ・ 青葉山地区においては、杜の都のシンボルとなる青葉山公園の整備等を進めるとともに、大学等の知的資源を生かしながら、国際的な学術文化交流機能を強化していく。
- ・ 住宅団地等の形成に伴って整備してきた道路・公園等の生活基盤の経年化に対して、地域の実状に応じた適正な機能の維持・改善に努めるなど、安全で快適な住環境の維持・保全を図る。

（まちの賑わい・魅力の拡充）

- ・ 中心部商店街においては、地下鉄東西線の開業も見据え、情報発信や観光・各種イベントとの連携などによって集客力を高め、中心市街地の活性化、賑わいの創出を図る。
- ・ 多様で豊かな自然、歴史的・文化的資源などを生かし新たなまちの魅力向上に努めるとともに、観光資源と自然体験を結びつけた観光レクリエーションの振興などを図る。

「みんなで支え合い共に元気に暮らせるまち」をめざして

（安心・快適なまちづくりの推進）

- ・ 公共施設・ライフラインの耐震性向上や民間住宅の耐震化促進を図るとともに、地域における共助のための災害対応計画の策定や組織づくりを進めるなど、災害に強いまちづくりを推進する。
- ・ 自転車の安全走行の徹底や飲酒運転の根絶などに向けた交通安全の啓発活動に取り組むとともに、地域や関係機関等の連携による防犯活動を促進するなど、安全なまちづくりを進める。
- ・ 障害者が地域で自立し安心して暮らせる環境づくりに向け、支援体制の充実や公共施設のバリアフリーを進めるなど、誰もが安心して快適に生活や活動ができるまちづくりを進める。

（高齢者がいきいきと暮らせるまちの実現）

- ・ 高齢者が心身ともに健康で自立した生活を送れるよう、健康相談・各種講座等の健康づくりを推進するとともに、高齢者の地域包括ケア体制の機能強化を図るなど、高齢者が元気に暮らせるまちづくりを進める。
- ・ 振り込め詐欺や悪徳商法等の犯罪、自動車・自転車による交通事故などの発生防止に向けた取り組みを進め、高齢者が安心して暮らせるまちの実現を目指す。

（子どもたちが元気に育つ環境づくりの推進）

- ・ 保育サービスの拡充や子育て相談機能の充実など、子育て家庭に対する支援を強化するとともに、児童館の整備等による子どもの活動拠点の確保や学校教育施設の環境整備など、地域の特性を踏まえながら、子どもたちが元気に育つ環境づくりを推進する。

「杜の都の誇りを次代につなぎ高めていくまち」をめざして

(自然環境・歴史文化・景観等の保全・継承)

- ・ 杜の都・仙台の都心やその周辺の貴重な緑、西部の広大な山岳丘陵地、区中央を流れる広瀬川など、かけがえのない多様で雄大な自然環境を保全し、未来に継承していく。
- ・ 四百年以上にわたる歴史を誇り、仙台独自のまちの魅力を高める歴史的資源、市民の暮らしや地域の行事などに根づいている文化を、市民全体の資産として大切にし、次世代へ継承していく。
- ・ 青葉山等の貴重な自然や藩政時代からの歴史的資源に、融合・調和した魅力的な都市空間、風格のある景観の維持・形成を図る。

《 区民参画のまち ～まちづくりの推進力～ 》

(地域の特性に応じたまちづくりの推進)

- ・ 地域の課題が複雑化・多様化する中で、地域と行政等が地域の特性や課題を把握・共有し合える仕組みづくりに努める。また、住民や町内会をはじめとする各種の地域団体が連携・参画した組織づくりやその組織による活動の促進を図るなど、地域の課題解決に向けた地域づくりを推進する。
- ・ 地域のまちづくりを推進するため、地域の状況を踏まえながら、市民センターやコミュニティ・センターの計画的な整備・更新に努めるとともに、地区集会所の整備を支援するなど、地域の活動拠点の充実を図る。
- ・ 地域における交流の場づくりを進めるとともに、地域の見守り活動等の支援や、地域のさまざまなNPOなどの支援・育成を行うなど、共に支え合い、助け合う環境づくりを進める。
- ・ 地域の人的・物的資源を活用した自主的なまちづくり活動等の取り組みを促進するとともに、区民、地域団体、NPOなどの連携・協力により、特色ある区づくりの事業を推進していく。

(高齢者の知識や経験を生かしたまちづくりの推進)

- ・ さまざまな活動の貴重な担い手として期待される高齢者の知識や経験をまちづくりに生かし、次世代に継承する。

(若者の力を生かしたまちづくりの推進)

- ・ 学生を中心とした若者の発想・行動力を生かした取り組みを通して、地域の活性化や多面的な街の魅力を生み出すまちづくりを推進する。

(3) 圏域ごとの主な施策の基本方向

都心地域

(特性と動向)

- ・ 市中心部に位置し、商業・業務、行政機能、交通結節機能等が集積する地域である。青葉通・定禅寺通のケヤキ並木、交流・憩いの場である勾当台公園や西公園等があり、また、仙台開府以来の歴史的資源が数多く残っている。これらは、仙台のまちの魅力として重要な資源である。
- ・ 中心部商店街があり、仙台・青葉まつりや定禅寺ストリートジャズフェスティバルな

どのまちを舞台にした多彩な祭り・イベントも開催されるなど、人々が集う賑わい・交流の拠点地区であり、主要な観光エリアである。本市の交流人口の拡大を促すためにも、この地域の魅力と賑わいをさらに持続・発展させていく必要がある。

- ・ 人口が増加していること、また、年齢別人口区分で 20 代から 40 代までの人口が他の年齢区分よりも多いことが特徴である。単身世帯の増加が進むことが予想され、住民の暮らしの安心を確かなものとするためには、地域コミュニティづくりを推進していくことが重要である。
- ・ 繁華街・オフィス街等が多く交流活動や経済活動も盛んであり、犯罪発生の防止を図るなど、快適な賑わい・交流機能を維持していくことが求められる。

（主な施策の基本方向）

- ・ 仙台の顔である青葉通・定禅寺通や仙台駅前西口ペDESTリアンデッキ、交流の場である勾当台公園・西公園等の公共施設について、適切な維持・管理を進めるとともに、さらなる魅力向上を図る。
- ・ 仙台駅を中心とする都心部等の緑化を重点的に進めるとともに、ケヤキの復植、良好な沿道景観への誘導、シンボルロード整備により青葉通の再生を図る。
- ・ 公共交通網の結節点である仙台駅周辺について、東西連絡自由通路の再整備や交通機関の乗り換えの利便性の向上など交通結節機能の強化を図る。
- ・ 観光や各種イベントとの連携、さらには市街地の再開発などによって、中心部商店街の集客力を高め、中心市街地の活性化を図る。
- ・ 都心やその周辺などの自然、歴史的・文化的資源や観光スポット等を結ぶ回遊性を高めるとともに、広瀬川を囲む青葉山公園と西公園等の一体的なエリアづくりを進めるなど、さらなるまちの魅力の向上を図る。
- ・ 歩きたばこ、落書きや違法駐車などの迷惑行為の減少を図るとともに、犯罪発生を防ぐための啓発活動や関係機関・団体と連携した防犯活動を促進するなど、犯罪の起きにくい環境づくりを進める。
- ・ 単身や若い世帯の割合の高い地区などにおいて、良好な地域コミュニティづくりの促進に努めるなど、地域の特性に応じたまちづくりを進める。

都心周辺地域

（特性と動向）

- ・ 都心地域を取り囲むように広がる地域である。藩政時代から続く大崎八幡宮、東照宮、北山五山などの神社仏閣があり、どんと祭などの伝統が受け継がれている。人口減少化の傾向や少子高齢化が進む中で、地域の活力を維持していくためには、地域の資源を活用して、地元の商店街も含めた地域づくりを進めることが求められている。
- ・ 市街地の形成に伴って整備してきた道路・公園などについては、経年化への対応が必要である。また、住宅が密集している地区が多く、防災対策をはじめ、高齢化が進む中で生活の安心を確保するための取り組みが求められる。
- ・ 歴史的資源と貴重な自然が残る青葉山一帯は、杜の都を代表する地域で、博物館、国際センター、大学等が設置されている学術文化・教育地域でもある。大学のキャンパ

ス移転、地下鉄東西線の開業等を契機として、学術文化交流機能の充実が求められている。

（主な施策の基本方向）

- ・ 都心も含め、自然、歴史的・文化的資源や観光スポット等を結ぶ回遊性を高める。地域の商店街については、人材育成や地域との連携を支援し、地域の活性化を図る。
- ・ 地域の生活基盤については、地域の実状に応じた適正な機能の維持・改善に努めるなど、安全で快適な住環境の維持・保全を図る。
- ・ 地域における交流機能の拡充、さまざまな市民団体の支援・育成を行うなど、地域の実状に応じて、互いに支え合う、より緊密な地域コミュニティづくりの推進を図る。
- ・ 青葉山地区においては、貴重な自然や仙台城跡等の歴史的資源を保全・活用し、杜の都のシンボルとなる青葉山公園の整備を進めるとともに、大学等の知的資源を生かし、地下鉄東西線の開業による利便性の向上等と合わせて、国際的な学術文化交流機能を強化していく。

丘陵住宅地域

（特性と動向）

- ・ 戦後の高度経済成長期の人口増加に伴って、北部から西部にかけての丘陵地帯が次々と住宅団地として開発され、街が形成された地域である。開発からかなりの年月が経過し、地域における道路や公園などの経年化が進んでいる。
- ・ 地理的に鉄道から離れており、バスが運行されてはいるものの、バス路線の空白地域や不便な地区も点在しており、高齢世帯の増加に伴って、日常生活上の移動に必要な交通手段の確保が大きな課題となっていくことが予想される。
- ・ さらに高齢化が進行すると予想されることから、住民が安心して暮らすことのできる地域コミュニティの形成が求められる。

（主な施策の基本方向）

- ・ 道路・公園などの地域の生活基盤については、地域の実状に応じた適正な機能の維持・改善に努めるなど、安全で快適な住環境の維持・保全を図る。
- ・ 鉄道駅へのバスの結節を進め、鉄道の利用範囲の拡大を図るとともに、その利用がしにくい地域等においては、幹線道路を利用した定時性や速達性の優れたバス等の導入を進めるなど、公共交通の利便性の向上を図る。
- ・ 防災・防犯等の安全・安心の確保や、高齢者への在宅支援等の地域福祉を進めるなど、地域の状況に応じた、共に支え合う地域づくりの推進を図る。

愛子および周辺地域

（特性と動向）

- ・ ＪＲ仙山線に加えて、国道 48 号仙台西道路等の整備によって交通の利便性が向上し、ＪＲ愛子駅・宮城総合支所周辺などを中心に商業・業務機能等の整備や人口の増加が進んでいる地域である。今後とも、暮らしやすい環境が維持されていくことが重要で

あり、人口の増加などへの対応が必要になっていくことが予想される。

- ・ 近年、人口が急増し、特に 15 歳未満の年少人口と 30 歳代の増加が顕著であり、若い家族が住宅を購入して移り住む傾向にある。急激な人口の増加を踏まえたコミュニティづくりや、新たに住民となった若い世代が安心して楽しく子育てができる環境の整備が求められている。

（主な施策の基本方向）

- ・ 交通の利便性に優れ都心に近い地域であるという利点を生かし、周囲の自然や景観等との調和のとれた良好な住環境を有する地域としてまちづくりを進める。
- ・ 子どもの活動拠点の確保や学校教育施設の環境整備など、各種の基盤の適切な維持・管理や整備を図る。
- ・ 新旧住民間も含めた地域の交流の場づくりなど、良好な地域コミュニティの形成を促進する。また、親子の交流の場の提供、子育て相談機能の充実、さらには子どもに対する交通安全対策の推進など、子育て環境づくりの推進を図る。

西部山岳丘陵地域

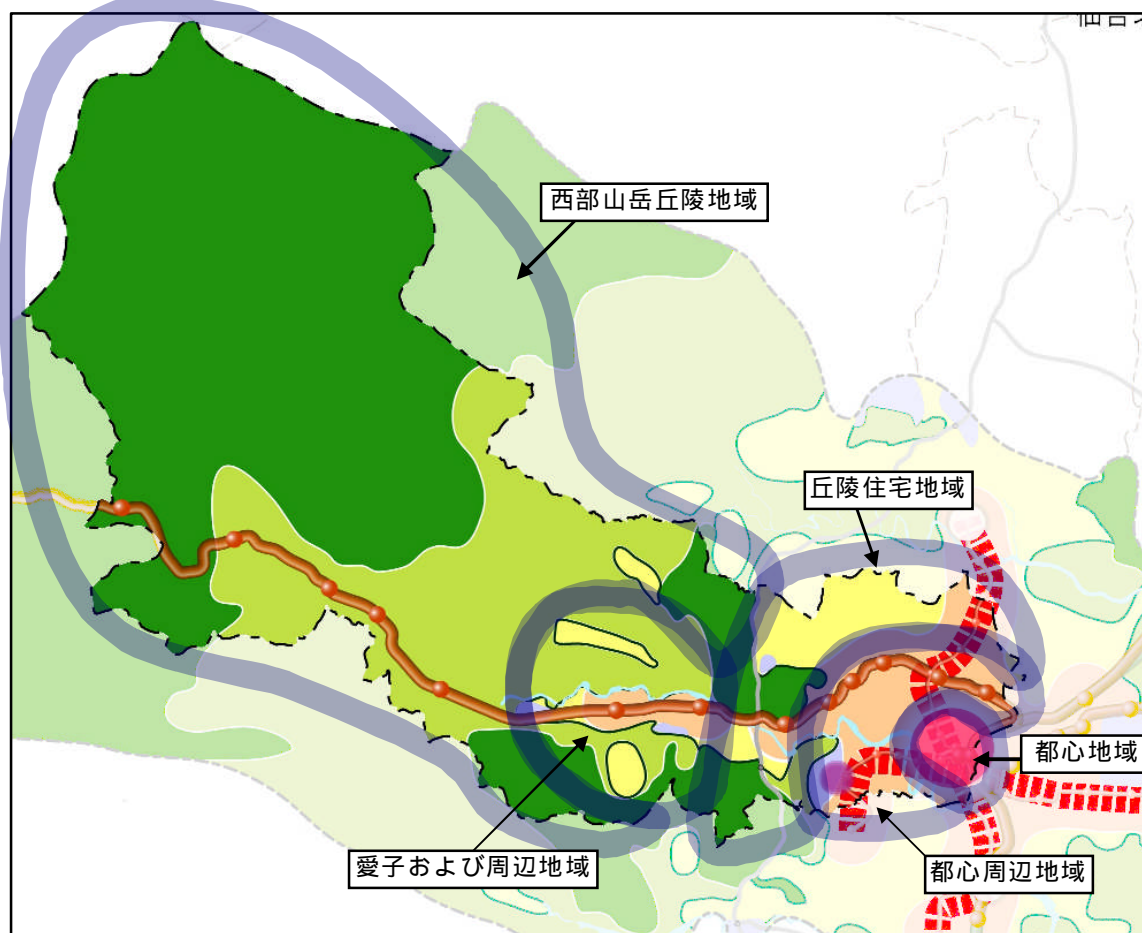
（特性と動向）

- ・ 船形連峰等の雄大で多様性に富んだ自然と共に、定義如来などの歴史的資源、作並温泉・奥新川などの観光資源に恵まれた地域である。これらの資源は、仙台にとって貴重なものであることから、未来につなぐ取り組みが重要であるとともに、地域の魅力向上や産業振興を図る観点から、これらを生かしたまちづくりや観光交流の場の振興などを図っていく必要がある。
- ・ 水田農業や酪農なども行われているが、クマ、イノシシ等による農作物被害や生活被害が発生しており、対策が求められている。
- ・ 人口の減少が続き、区内の 5 つの地域の中で最も高齢化率が高い。高齢世帯が増加する中で暮らしの安心を維持していくためには、さまざまな課題に取り組む地域のコミュニティづくりが求められる。

（主な施策の基本方向）

- ・ 森林や河川等を適切に保全し、雄大で豊かな自然を継承していくとともに、この自然に融合・調和した景観の維持・形成を図る。また、作並温泉や定義如来、奥新川ライン等の観光資源と自然体験を結びつけた観光レクリエーションの振興や農林業・商工業との連携の促進、地域資源の発掘やその効果的な活用に努めるなど、観光交流の拡充を図る。
- ・ 野生鳥獣による農作物等被害の防止対策を進めるとともに、多面的機能を持った農地の保全・利活用を図っていく。
- ・ 高齢世帯の増加の中で、交通の利便性の維持、防災・防犯などの安全安心の確保や、高齢者の在宅支援等への対応など、地域の課題解決に向けた取り組みを推進する。

(4) 区の地域区分図



	自然環境保全ゾーン		都心		東北新幹線
	集落・里山・田園ゾーン		広域拠点(泉中央地区・長町地区)		鉄道在来線
	市街地ゾーン		都市軸 (地下鉄南北線沿線・東西線沿線)		地下鉄(南北・東西線)
			機能拠点 国際経済流通拠点 (仙台港周辺地区)		自動車専用道路
			学術文化交流拠点 (青葉山周辺地区)		行政界(市域界)

宮城野区

(1) 区の将来ビジョン

区の特性と動向

- ・ いにしえより歌枕として詩歌に詠まれた「宮城野」を区名とする宮城野区は、本市の北東部に位置し、新しい都心として整備の進む仙台駅東地区から特定重要港湾である仙台港にかけて広がる区域である。
- ・ 東は、太平洋に面し、蒲生干潟、長い海岸線を利用した海岸公園、歴史的資源である貞山運河など、多くの海の恵みがある。また、七北田川、梅田川等の河川、与兵衛沼等の池沼など豊かな水資源がある。
- ・ 約 62 平方キロメートルのコンパクトなエリアの中に、それぞれの地域が固有の歴史を持ちつつ、さまざまな表情を併せ持っており、仙台駅の東側で本市の都心機能の一部を担う「都心および周辺地域」、比較的早い時期に開発され成熟した住宅地が広がる「丘陵住宅地域」、県民の森などの自然環境や豊かな田園、さらに新しい住宅地も形成されつつある「北部住宅・田園地域」、仙台港を中心に物流と産業の拠点になる一方、豊かな田園地域や住宅地域も併せ持つ「東部住宅・産業・田園地域」から構成されている。

(概況)

- ・ JR 東北本線、JR 仙石線が区内を横断しており、それに並行して国道 45 号、県道仙台松島線などの主要幹線道路が通っている。
- ・ 鉄道沿線を中心に、数多くの地区で区画整理事業による基盤整備が行われてきており、特に仙台駅東地区や仙台港背後地などでは、本市の都心や拠点となる地区を形成する新たなまちづくりを進めている。
- ・ 扇町・日の出町地区や仙台港背後地など、市内の工業系用途地域面積の約 6 割が宮城野区にある。
- ・ 特定重要港湾である仙台港は、貨物取り扱い量が年々増加しており、また同港の周辺地区は基盤整備や流通業務系の産業の集積が進み、都市圏北部の大規模製造業の立地等に伴い、さらなる発展が見込まれている。
- ・ 区内に東北楽天ゴールデンイーグルスの本拠地球場が立地し、多くのファンが来場することにより、新たな賑わいの核の一つとなっている。
- ・ 宮城野区の地勢的状况や都市化の進展により、降雨時に内水被害が起きている地区がある。

(人口)

- ・ 人口は 188,781 人（平成 22 年 7 月 1 日推計人口）である。鉄道駅付近で区画整理事業による市街地整備が進んだ影響などにより、この 10 年間で約 1 万人の人口が増加しており、市内で最も高い人口増加率となっている。
- ・ 年齢別人口割合を見ると、生産年齢人口（15 歳以上 64 歳まで）の占める割合は市内で最も高くなっている。
- ・ 高齢化率は市内で最も低くなっており、将来的にもこの傾向が続くことが見込まれる。

- ・ 地域ごとに見ると、鶴ヶ谷地区など高齢者の割合が非常に高い地区がある一方、新田東地区、岩切地区など、若年層の人口が急増している地区がある。

（地域づくり）

- ・ 地域ごとに、その培われた歴史と文化、土地利用の状況、人口の規模や構成に大きな相違があり、その特性に応じてさまざまな地域活動が行われている。
- ・ 町内会は、区内に13の連合町内会に組織され、それぞれの個性を持ちながら、活発な活動が行われている。
- ・ 町内会活動と連携して、防犯協会や自主防災組織などの、安全安心の活動が行われている。
- ・ 地区社会福祉協議会は、区内を13の地域に分け、地域づくりを目標に活動している。
- ・ 区内の団体の多くが、みやぎの区民協議会として組織され、区民協働事業のネットワークを形成している。
- ・ 区内の市民センター9館における各種の生涯学習活動や、小学校21校で開催される地域の人々の学びの場である社会学級など、多様な学びの活動が展開されている。
- ・ 地域保健福祉活動として、住民力を生かした多くの介護予防・健康づくり自主グループ活動や子育てサークル活動が行われている。
- ・ 公園や河川、道路の環境美化活動が地域活動として行われている。

区の将来ビジョン

海山の自然に恵まれた仙台平野は、郡山、多賀城と古代以来陸奥国の国府が置かれるなど、東北の政治・文化の中心であった。いにしえより歌枕として詩歌に詠まれた「宮城野」を区名とする宮城野区は、それぞれが、存在を理解し、認め合い、支え合いつつ未来を目指し、この恵まれた自然や培われた歴史と文化をしっかりと受け止め、次世代に継承するため、次の4つを目指すべき姿とする。

自然の恵みと調和しつつ、安全安心の宮城野の里

広く交流し、活力あふれる宮城野の里

人々が支え合い、共生する宮城野の里

生涯を通じて学び、次世代を育む宮城野の里

（2）区の主な施策の基本方向

区民の暮らしの基盤は地域であり、地域住民自らが主体的に地域づくりを進めている。区役所は地域に最も身近な行政機関として、地域の状況や、地域資源等を十分把握し、そこに暮らす人々の思いを重ねていく。

その上で、目指すべき4つの姿の真の主人公である区民と行政が協働して、以下に掲げる基本方向に基づいた取り組みを展開しながら、区の将来ビジョンの実現を図ってい

く。

「自然の恵みと調和しつつ、安全安心の宮城野の里」をめざして

- ・ 近い将来に発生が確実視される宮城県沖地震や津波、大雨等による被害を最小限にとどめるため、地域防災力の向上、民間住宅等の耐震対策の支援など、災害に強いまちづくりの促進を図る。
- ・ 区的地勢的状况や都市化に伴う内水被害への対策として、雨水排水対策を推進する。
- ・ 都市計画道路など、区内の主要幹線道路の整備を推進する。また、幹線的な道路の拡幅や歩道設置、事故多発の交差点・踏切等の改善を実施し、地域内交通の円滑化を図っていく。
- ・ 老朽化がみられる公園や植栽の適正な管理など、安全確保と防犯対策の向上を図る。
- ・ 岩切大橋や高砂大橋等の地域の主要橋りょうの補修工事の実施や、公共的施設周辺の街路灯の照度アップを図り、安全で安心な通行を確保していく。
- ・ 七北田川や蒲生干潟等の海岸線、貞山運河等を結び、相乗的に豊かな水辺環境の創出を図り、その魅力を発信していく。
- ・ 地域で活動する企業・団体、さらに市民活動の力を得て区の独自事業として取り組んでいる「おらほの公園草刈隊」のさらなる広がりに向けて、積極的な支援策を展開していく。

「広く交流し、活力あふれる宮城野の里」をめざして

- ・ 仙台の新しい顔である仙台駅東口から東北楽天ゴールデンイーグルスの本拠地球場に至る宮城野通周辺での活力あるにぎわい創出のため、道路・公園等の公共空間を活用したイベント等の開催を支援していくとともに、宮城野通に面する企業・団体・町内会等と連携し、快適な空間を創出していく。
- ・ 鉄道の各駅前広場と路線バスとの結節機能を高め、日常生活における交通の利便性の向上を図る。
- ・ 都市圏北部の大規模製造業の立地等に伴う仙台港および周辺地区の物流・交流機能の強化に向けた取り組みを進める。また、仙台港一帯を市民が集う憩いの場とするため、魅力ある公園の整備を進める。
- ・ 地域が持つ魅力を掘り起こし、人が集まる活力に満ちたまちづくりを進める。
- ・ 図書館、区中央市民センター、児童館等を併設した複合施設宮城野区文化センターを開設し、さまざまな交流を促進する。
- ・ 市民力のさらなる発展を支援するため、みやぎの区民協議会と連携し、区に縁のある個人や活動団体のネットワーク形成の機会を提供する。
- ・ 農に関する情報提供や交流機会の創出、食育の推進など、市民の相互理解やパートナーシップの形成により、都市部と農村部の「ひと」と「もの」が交流する仕組みを構築する。

「人々が支え合い、共生する宮城野の里」をめざして

- ・ 育児サークル、保育所、児童館、市民センター、民生児童委員等の地域の子育て支援

関係者との協働により、子どもと子育て家庭を応援する地域コミュニティづくりを進める。

- ・ 乳幼児、児童、青少年等の健全育成の観点から、地域団体や関係機関と連携して、孤立する子育て家庭への予防対応を含む要保護児童対策を推進する。
- ・ 介護予防・健康づくりを自主サークル活動などの住民主体の取り組みとすることにより、希薄になりつつある人々の関わりの機会を確保し、人々が支え合う地域づくりを進める。
- ・ 認知症やうつといった高齢社会における課題への対応を通して、人々が支え合う地域づくりを進め、高齢者が住み慣れた地域で生活を維持できるようにする。
- ・ 地域住民、関係機関と協働して防犯活動を進める。
- ・ 女性や高齢者、障害者等の状況を視野に取り込みながら、地域住民や関係機関と協働で、地震、津波等の減災への取り組みを進める。

「生涯を通じて学び、次世代を育む宮城野の里」をめざして

- ・ 自らが暮らす地元の歴史や文化を学ぶ地元学発祥の区として、世代間交流を図りながら、地域文化を継承するなどの地元学の新たな展開を小中学校等と連携しながら推進する。
- ・ 地域課題について市民センターと共有を図りながら、市民センターの生涯学習機能と区役所の地域づくり活動を融合し、推進する。
- ・ 区内に数多く存在する、史跡や埋蔵文化財包蔵地について、適切な維持管理を行い、本市の重要な歴史的・地域資源の良好な保存に努めていく。
- ・ 教育における生きる力の育成には、幅広い体験活動などが必要とされるなか、地域と学校との相互連携を支援していく。
- ・ 少子化、核家族化、地域のつながりの希薄化等の中で、初めて子育てを経験する親とその子どもの育ちのため、子育てに係るコミュニケーション能力の育成に取り組む。

（３）圏域ごとの主な施策の基本方向

都心および周辺地域

（特性と動向）

- ・ ＪＲ仙石線地下化事業の完了や区画整理事業の進展に伴い仙台駅東地区に新しい都市空間が形成されてきている。
- ・ 東北楽天ゴールデンイーグルスの本拠地球場に至る宮城野通は新しい仙台の顔となっており、その周囲には、古くからの市街地である小田原、五輪、原町、東仙台があり、個性的な趣を持つ。
- ・ 鉄道の新駅周辺である新田東地区等では、若年層が急増している。

（主な施策の基本方向）

- ・ 宮城野通を軸とした周辺のにぎわいや活力創出のため、新しいまちづくりや道路・公園等を活用したイベント等の開催を支援する。
- ・ 仙台駅東第二土地区画整理事業を推進するとともに、その進捗にあわせ、地区内にあ

る公園整備を実施していく。

- ・ 宮城野通に面する企業・団体・町内会等による宮城野通愛護協力会一斉美化清掃活動などと連携し、快適な空間を創出していく。
- ・ 宮城野通の自転車道整備を継続して進めることや、緑豊かな杜の都づくりを推進するため緑の回廊を充実させることで、仙台の東の玄関にふさわしい都市景観を構築する。
- ・ 市民の憩いの場であり歴史的な背景のある榴岡公園において、適正な維持管理や改修を行っていく。
- ・ 都市計画道路元寺小路福室線の宮城野橋架け替え等、駅東地区や五輪地区の道路改良工事等を継続的に進める。
- ・ 市道等の歩道拡幅工事や、交差点改良、段差解消工事を行い、人と車にやさしい道路を整備していく。
- ・ 児童の急増に対応するため、新田小学校の増改築を進める。
- ・ 仙台駅東地区の雨水排水能力の向上を計画的に進めていく。

丘陵住宅地域

（特性と動向）

- ・ 主に戦後、住宅地が広がった地域であり、開発時期の早い住宅地はすでに成熟段階を迎えている。
- ・ 鶴ヶ谷地区は、区内で最も高齢化率が高い地域である。
- ・ 住宅地の中にも与兵衛沼公園等の豊かな自然を内包している。

（主な施策の基本方向）

- ・ 水辺と緑を身近に体験できる貴重な場所であり、埋蔵文化財包蔵地にも指定されている与兵衛沼公園を、自然体験型の都市公園として整備を進めていくとともに、本市の重要な歴史的な地域資源として良好な保存に努めていく。
- ・ 高齢化率の高い鶴ヶ谷地区において、健康づくり拠点として鶴ヶ谷中央公園を含め隣接する市道等の再整備を行い、高齢者をはじめとする幅広い人々が安心して暮らせる魅力的なまちづくりを目指していく。
- ・ 市道の橋りょう拡幅工事や、歩道整備を行い、円滑な通行の確保と安全な歩行空間の確保を図る。
- ・ 鶴ヶ谷市営住宅において、老朽化した施設の建て替えを進めるとともに、鶴ヶ谷地区の再生に寄与する拠点の形成を図る。また、公共施設のバランスある配置に努める。

北部住宅・田園地域

（特性と動向）

- ・ 岩切城跡をはじめ、県民の森や七北田川、広大な農地など豊かな歴史と自然を有する地域である。
- ・ 従来よりまとまりのあるコミュニティを有していたが、近年、ＪＲ東北本線岩切駅周辺の区画整理事業による整備に伴い、若年層が増加してきており、新しい街が形成されつつある。

(主な施策の基本方向)

- ・ 児童生徒の増加等に対応し、小中学校の増改築などを進める。
- ・ 子育て世代の転入者が増加するなか、まとまりのあるコミュニティが存在する地域特徴を生かしつつ、子育て講座の開催等により構築されたネットワークを地域につなげるなど、子育て環境の整備を行う。
- ・ 新たな市街地が形成されようとしている岩切駅東土地区画整理事業の進捗に合わせ、地区内の公園整備を進める。
- ・ 市道の歩道を設置するなど、安全な歩行空間の確保を推進するとともに、道路の防災化を進めるなど、災害に強い道路の整備を図る。
- ・ 周辺に新しい街が形成されつつある岩切駅において鉄道利用者の利便性の向上を図る。
- ・ 国史跡に指定されている岩切城跡について、適切な維持管理を行い、本市の重要な歴史的地域資源として良好な保存に努めていく。
- ・ 七北田川周辺の良好な水辺環境の創出を図る。

東部住宅・産業・田園地域

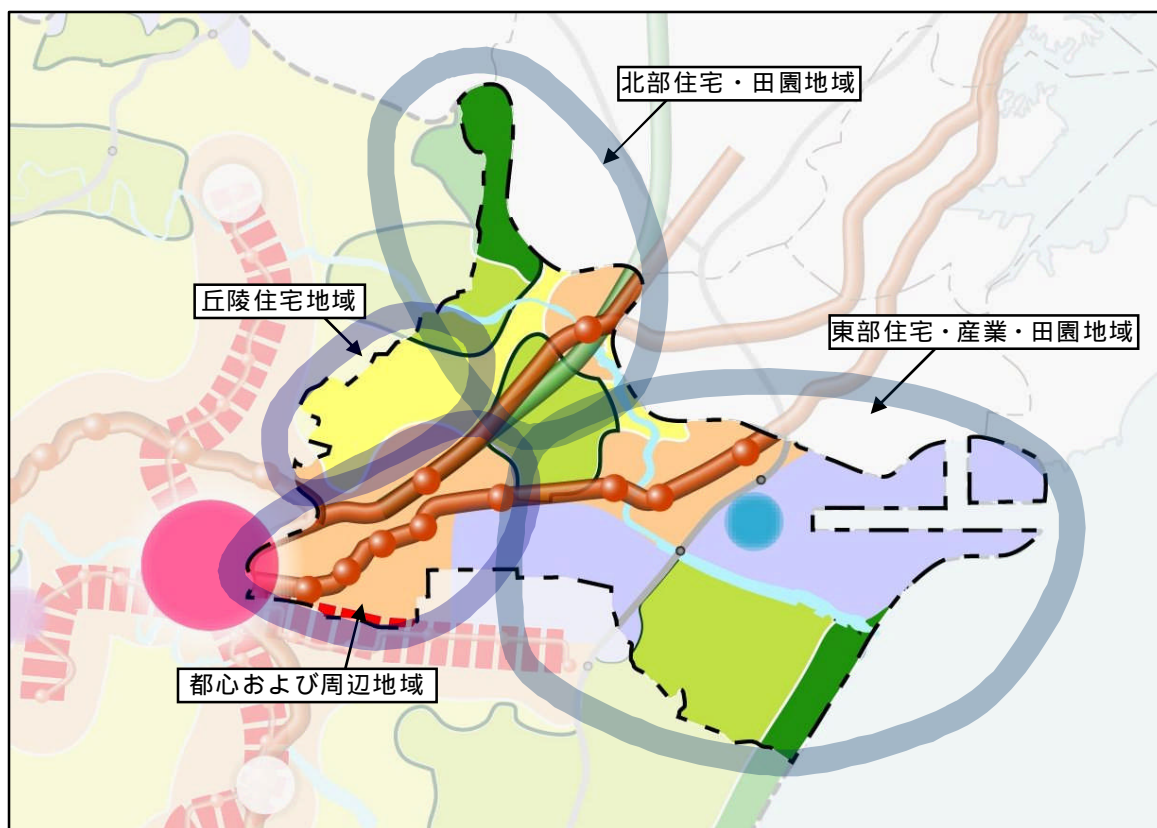
(特性と動向)

- ・ 豊かな田園と蒲生干潟等の自然豊かな海岸が広がる地域である。
- ・ 仙台港および背後地周辺では港湾の整備と連携した産業振興・流通の拠点形成を促進するための基盤整備が進んでいる。
- ・ J R 仙石線の駅周辺において、区画整理事業などの実施により市街地形成が進み、若い世代が転入等により増加している。
- ・ 扇町、日の出町地区は、若林区の卸町、六丁の目地区と一体となって、流通・産業地域を形成している。

(主な施策の基本方向)

- ・ 仙台港背後地土地区画整理事業の進捗に合わせ、地区内にある高砂中央公園や近隣公園の整備を実施していく。
- ・ 仙台港および周辺地区の物流・交流機能の強化に向け、仙台港インターチェンジの整備を促進するとともに、アクセス道路の整備を推進する。
- ・ 市道の交差点改良や踏切改良など、歩行者等の道路利用者の安全対策を実施していく。
- ・ 蒲生干潟等の海岸線や、貞山運河等においてサイクリングロードを生かした水辺環境の創出を図る。
- ・ 津波に対する取り組みを、地域住民、関係機関と連携して進める。
- ・ 西原地区等において、ポンプ場建設等による雨水対策事業の推進を図る。

(4) 区の地域区分図



	自然環境保全ゾーン		都心		東北新幹線
	集落・里山・田園ゾーン		広域拠点(泉中央地区・長町地区)		鉄道在来線
	市街地ゾーン		都市軸 (地下鉄南北線沿線・東西線沿線)		地下鉄(南北・東西線)
	郊外区域		機能拠点 国際経済流通拠点(仙台港周辺地区)		自動車専用道路
	工業・流通・研究区域		学術文化交流拠点(青葉山周辺地区)		行政界(市域界)

若林区

(1) 区の将来ビジョン

区の特性と動向

- ・ 若林区は、東は太平洋に面し、西は青葉区、北は宮城野区、南は広瀬川と名取川沿いに太白区に隣接し、名取川下流で名取市と接しており、面積は約 50 平方キロメートルである。
- ・ 豊かな自然と歴史に恵まれた若林区の区名は、伊達政宗公がこの地で晩年を過ごした「若林城」に由来する。また、藩政時代の町割りを今に伝える由緒ある地名が残り、旧奥州街道沿いには現在も商店街が残っている。
- ・ 類似する地域の特性によって、「都心および周辺地域」「郊外住宅地域」「産業・交流地域」「田園・海浜地域」の 4 地域に区分される。

(概況)

- ・ 海浜や河川等の水辺を中心とした豊かな自然や、由緒ある寺社や史跡、居久根などの多くの歴史文化遺産に恵まれている。
- ・ 北部の国道 4 号沿いには、青果物や鮮魚等を東北一円に供給する中央卸売市場、東北最大の規模を誇る卸商センターなどを中心に、卸売、運輸、印刷などの産業が集積し、本市の流通、工業の中核的機能を担っている。
- ・ 七郷地区には区画整理事業による市街地整備で宅地化が進む地域がある一方、六郷・七郷地区には優良農地が広がり、稲作のほか、野菜や花きなどの市街地に近い立地を生かした農業が盛んである。また、市内唯一の海水浴場である深沼海水浴場は多くの海水浴客で賑わい、豊かな自然景観を残す海浜地域一帯は海岸公園としての整備が進められている。
- ・ 建設工事が進捗する地下鉄東西線の駅周辺や沿線では、新たな産業や居住機能の集積、土地利用の高度化、来街者の増加等が期待されており、若林区は将来の発展に向けた潜在力を秘めている。
- ・ 沖積平野特有の軟弱地盤や平坦地が多く、地震や豪雨時の被害が予想されるほか、海浜地域には津波のリスクが存在するなど、地形的条件による防災上の課題が存在する。

(人口)

- ・ 人口は平成 22 年 7 月 1 日推計人口で 131,116 人、世帯数は 58,134 世帯である。
- ・ 区の人口は、自然増に加え、住宅開発等に伴う転入者の増加による社会増の影響から、この 10 年間で全体として約 2 千人増加した。
- ・ 世帯数はこの 10 年間で約 4 千世帯増加し、一世帯当たり世帯人員は 2.3 人となっている。
- ・ 年齢別の人口構成を見ると、市全体の傾向と同じく、15 歳未満の年少人口および 15 歳から 64 歳までの生産年齢人口の割合は減少傾向にあり、65 歳以上の高齢人口の割合は増加傾向にある。

(地域づくり)

- ・ 町内会加入率は近年低下傾向にはあるものの約9割を保ち、安全・安心のまちづくりや生活環境改善への取り組みなど、地域活動はなお活発である。他方、集合住宅が多い地域等では、地縁による近隣関係が疎遠となり、コミュニティ意識が希薄化している地域もある。
- ・ 子育て支援に取り組む市民団体や、河川・用水堀等の保全と活用、農産物の地産地消等、固有の地域資源の活用に取り組む市民団体の活動が活発である。

区の将来ビジョン

若林区は、伊達政宗公晩年の居城「若林城」を中心とした城下町として栄え、近年は、恵まれた自然環境と歴史的・文化的資源を生かしたまちづくりを進めている。平成27年には地下鉄東西線の開業をひかえ、(仮称)荒井駅をはじめとする各駅周辺のまちづくりを市民協働で推進している。これらを踏まえ、若林区の将来のビジョンとして5つの目指すべき姿を掲げ、まちづくりを進める。

災害に強く、地域の絆の中で安心して暮らせるまち

世代を超えて結び合い、子どもの笑顔が輝く希望のまち

潤いに満ち、水辺・緑・歴史の個性あふれる魅力のまち

東西都市軸を生かし、都市の発展を導く活力の満ちるまち

都市と田園の地域特性を生かし、連携と交流で拓く賑わうまち

(2) 区の主な施策の基本方向

「災害に強く、地域の絆の中で安心して暮らせるまち」をめざして

(安全に、安心して暮らせる地域コミュニティの実現)

- ・ 地震に備えた住宅等の耐震化を促進するほか、津波、豪雨等の被害が予想される地域における津波避難支援や雨水排水対策を推進するなど、多様で効果的な防災対策を進めるとともに、地域共助による災害時要援護者への支援等、地域と行政が連携して災害発生時の被害を減じるための減災対策を推進する。
- ・ 交通事故、犯罪、迷惑行為を未然に防止し、地域の安全を脅かすさまざまなリスクに対応するため、地域と行政とが連携し地域の安全を確保する多様な取り組みを促進する。
- ・ 町内会をはじめとする地域団体等を核に、地域コミュニティの絆を生かした地域ぐるみの安全安心まちづくり活動を促す。

「世代を超えて結び合い、子どもの笑顔が輝く希望のまち」をめざして

(地域が支える子育て環境づくりと健康づくり)

- ・ 高まる保育需要に対応する保育サービスの拡充や子どもと親の活動拠点の充実など、子育て環境を整備するとともに、子育てへの不安を軽減し、安心して子育てができる社会環境を地域と共に創出する。
- ・ 高齢者や障害者が住み慣れた地域でいつまでも健やかに暮らせるよう、区民自らの創意と工夫による地域ぐるみの健康づくりを促す。

（健全で活力ある地域コミュニティの形成）

- ・ 地域において長年にわたり活動が続ける町内会や福祉関係団体等を中心に、新たな活動の担い手としてのNPO等を加えた市民協働を促すことにより、地域における福祉充実を図る。
- ・ 地域における学びのネットワークやスポーツ交流を通じ、区民一人ひとりが個性を発揮いきいきと暮らせる環境づくりを進める。

「潤いに満ち、水辺と緑と歴史の個性豊かに輝くまち」をめざして

（地域資源の活用による個性あるまちの形成）

- ・ 豊かな自然を残す井土浦等の海浜や広瀬川等の河川、歴史的遺産である貞山運河や六郷堀、七郷堀などの水辺景観を保全し、親水空間としての活用と整備を図る。
- ・ 居久根や樹林地、各所に点在する史跡や歴史的建築物などの地域資源を次世代に継承するとともに、地域活性化の核として活用する地域の取り組みを支援する。

「東西都市軸を生かし、都市の発展を導く活力の満ちるまち」をめざして

（地下鉄東西線の実現による都市環境への負荷の低減）

- ・ 地下鉄等の鉄道の利用を促し、過度に車に依存しない交通体系を構築することにより、環境負荷の小さい機能集約型の都市構造への転換を促進する。

（地下鉄東西線等沿線まちづくりの推進）

- ・ 地下鉄東西線沿線に形成を進める東西都市軸において、既存産業の高度化を図るとともに、沿線の多様な都市機能を連携させ、新たな産業等の立地を誘導するなど、都市機能の一層の充実を図る。
- ・ 地下鉄東西線沿線等の多様な地域資源を活用し、新たな文化や魅力の創出と交流の促進を図る。

（生活圏域における交通利便性の向上）

- ・ 生活圏域におけるバスの結節強化などにより鉄道へのアクセス性を向上させ、公共交通の利便性の向上を図るとともに、自転車を安全で快適に利用できる環境の整備を進める。

「都市と田園の地域特性を生かし、連携と交流で拓く賑わうまち」をめざして

（地域資源の活用による地域振興に向けた取り組み支援）

- ・ 田園・海浜地域の優良な農地と地域資源を生かし、生産性の高い農業経営に意欲的に取り組む農業者を育成するとともに、人が集う魅力あるまちの実現に向けた地産地消や農ある暮らしを求める都市住民ニーズに対応した多様な取り組みを支援し、地域の活性化を促す。

- ・ 買い物など、住民の日常生活を支え、地域の祭りやイベント、災害時の物資供給等の主体ともなる商店街等の活性化と地域資源を活用した地域の主体的まちづくり活動との一体的な推進を図る。
- ・ 交流や生活を支える交通機能の確保に向け、市民協働の取り組みを進める。

（３）圏域ごとの主な施策の基本方向

都心および周辺地域

（特性と動向）

- ・ 都心に連なる市街地に業務系施設、中高層集合住宅、低層戸建て住宅が混在して立地している。近年は一部地域において高層集合住宅化に伴う人口の増加がみられる。
- ・ 古くからの市街地には、舟丁、穀町、南鍛冶町等の藩政時代からの町割りを示す地名が残り、旧奥州街道沿いの荒町や河原町等に商店街が形成されている。
- ・ 地下鉄南北線と東西線の沿線には、情報通信業、不動産業、サービス業等の都市型産業が立地している。

（主な施策の基本方向）

- ・ 地下鉄東西線各駅周辺の土地の有効利用を図るため、地域主体のまちづくり活動を支援するとともに、地下鉄南北線各駅と連携した面的なまちづくりを進める。
- ・ 地下鉄東西線の各駅へのアクセス性を向上させ、公共交通の利便性を確保するため、バス結節を中心に多様な交通手段の活用を促すとともに、各駅周辺の生活圏域において、居住者や来街者が安心して活動できる道路環境の形成を図る。
- ・ 建築物等の耐震化と不燃化を促すとともに、発生時の被害を減じるための減災の仕組みづくり等の地域の取り組みを促す。
- ・ 地域を支える小売商業・サービス業機能を維持するため、地域主体のまちづくり活動と一体化した商店街活性化の取り組みを促す。
- ・ 広瀬川や六郷堀、七郷堀などの水辺景観を生かした親水空間としての活用、陸奥国分寺跡や薬師堂等の歴史的資産の保全と活用、地下鉄東西線沿線の回遊を促す新寺小路緑道の活用など、多様な地域資源を生かした個性ある街の形成を促す。

郊外住宅地域

（特性と動向）

- ・ 都心および周辺地域の東部から国道４号を挟んで低層戸建を主とする住宅地が広がり、幹線道路沿いに中高層の集合住宅や業務ビルが立地する。
- ・ 地下鉄東西線の（仮称）荒井駅周辺地区においては、周辺の田園環境を生かし、多様な魅力を持った東部地域の中心となる新しい街の形成が期待されている。
- ・ 近年は区画整理事業による市街地整備がなされた荒井地区等で人口が増加する一方、古くからの住宅地がある既成市街地では高齢化が進行している。

（主な施策の基本方向）

- ・ 地下鉄東西線と南北線等の鉄道へのアクセス性を向上させるため、生活圏域における

バス結節を中心とする公共交通の利便性の向上を図る。

- ・ 地域における小売業・サービス業機能を維持するため、地域のまちづくりと一体化した商店会等の取り組みを支援する。
- ・ 建築物等の耐震化と不燃化を促すとともに、豪雨時の雨水排水対策等を進める。また、災害発生時の被害を減じるための災害時要援護者支援等の減災対策の取り組みを促す。
- ・ 保育需要に適切に対応するため、保育サービスの充実を図るほか、地域の創意を生かし、地域と共に安心して子育てができる環境づくりを促す。
- ・ 新市街地の整備による居住者の増加に対応して、地域による新たなコミュニティ形成の取り組みを支援し、東部地域の核となる新しいまちの形成を図る。

産業・交流地域

(特性と動向)

- ・ 区の北部、宮城野区の扇町・日の出町地域と一体となり本市の産業活動の拠点を形成する卸町・六丁の目地域には、中央卸売市場、卸商センター、団地倉庫等の流通業務系施設が立地し、卸売業、運輸業、印刷業が集積している。
- ・ 業務機能が集積する一方で、低層戸建てや高層集合住宅が混在する居住機能も形成されている。近年では卸町地区において、人や情報が交流する文化、レクリエーション、居住等の多様な機能が複合する個性と賑わいのあるまちを目指した地域の取り組みが進んでいる。

(主な施策の基本方向)

- ・ 本市の産業活動の要である卸売業や印刷業などの既存産業の高度化・高付加価値化への取り組みを促し、新しい時代に対応した展開を支援するとともに、本市の戦略的産業であるクリエイティブ産業の立地を誘導する。
- ・ 産業活動の拠点としての機能に加え、演劇や音楽等の文化、レクリエーション機能の立地や居住機能の充実など、多様な都市機能の集積を図ることによって、人と情報が集い、交流する活力に満ちた個性あふれるまちづくりを促す。
- ・ 事業所や従業者の災害対策を促すとともに、居住者の生活の安全確保に向けた地域の取り組みを促す。
- ・ 地下鉄東西線の（仮称）卸町駅周辺の並木や公園等の緑を生かし、居住者、勤労者等に憩いの場を提供するとともに、周辺道路においても緑あふれる潤いある道路空間を整備するなど、魅力ある景観形成を誘導する。

田園・海浜地域

(特性と動向)

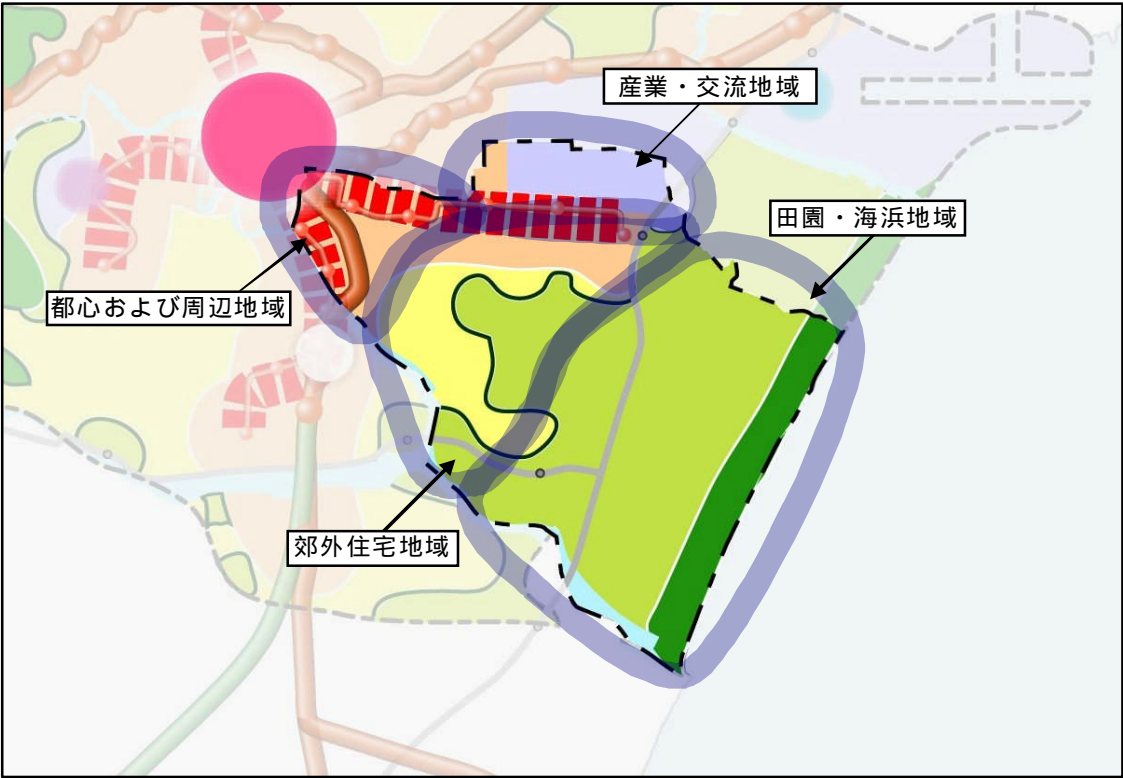
- ・ 区東部の田園地域には優良農地が広がり、稲作をはじめ、野菜や花きなどの市街地に近い立地を生かした農業が盛んであり、本市における食料生産機能を担っている。
- ・ 市内唯一の海水浴場である深沼海水浴場や美しい自然景観を残す井土浦や海岸公園、貞山運河、大沼と農業園芸センターなどの魅力的なレクリエーションスポットが存在する。
















- ・ 人口は減少傾向にあり、高齢化の進展が顕著である。

（主な施策の基本方向）

- ・ 生産性の高い農業経営への誘導により、優良農地を保全しつつ集落営農を促進する。
農業経営の担い手確保と育成を進めるとともに、都市近郊に位置する強みを生かし、地産地消や農ある暮らしなどの都市住民のニーズに的確に対応した市民農園や農商工連携等の取り組みにより、農業の振興を図る。
- ・ 農業経営とコミュニティの基盤を維持するため、新たな農ある暮らしへの取り組みを促す。
- ・ 市街地に近接しながら農村の暮らしの様子を残している居久根をはじめ、樹木、緑地、田園等の地域資源を保全、活用する方策を探るとともに、個性的で魅力ある景観を保全し、次世代に継承する地域の取り組みを促す。
- ・ 自然豊かな井土浦等の海浜の景観や貞山運河を生かした親水レクリエーション機能の創出を図るとともに、地下鉄東西線を活用した新たな交流を創出するため、サイクリングロードなどの魅力的な地域資源を生かした地域の多様な取り組みを促す。

(4) 区の地域区分図



	自然環境保全ゾーン		都心		東北新幹線
	集落・里山・田園ゾーン		広域拠点(泉中央地区・長町地区)		鉄道在来線
	市街地ゾーン		都市軸 (地下鉄南北線沿線・東西線沿線)		地下鉄(南北・東西線)
	郊外ゾーン		機能拠点 国際経済流通拠点 (仙台港周辺地区)		自動車専用道路
	工業・流通・研究区域		学術文化交流拠点 (青葉山周辺地区)		行政界(市域界)

太白区

(1) 区の将来ビジョン

区の特性と動向

- ・ 太白区は、本市の南西に位置し、面積は約 230 平方キロメートル、名取川に沿って東西の帯状に伸びる形をしており、ＪＲ長町駅周辺を中心とした本市南部の中心地である「南部拠点地域」、その南側一帯などで、ＪＲ南仙台駅周辺を中心に宅地化が進む平野部とその背後に優良農地が広がる「名取川右岸地域」、八木山をはじめとした丘陵部に住宅団地が連担する「丘陵住宅地域」、豊かな居住環境と山あいの緑と田園の残る「太白山周辺地域」、そして名取川の渓谷をはじめ豊かな自然と温泉に恵まれた「秋保地域」からなる。

(概況)

- ・ 太白区は、太白山や名取川をはじめとした自然、富沢遺跡や郡山遺跡に代表される埋蔵文化財などの歴史的資源、ユネスコ無形文化遺産に登録された秋保の田植踊などの民俗芸能、精好仙台平、柳生の紙漉や秋保工芸の里、石神ゆめの森などで培われている優れた伝統文化・技術を有するとともに、三神峯公園桜まつり、坪沼の蛍と平家琵琶の夕べ、策川ほたるまつり、広瀬川灯ろう流し、なかだ篝火コンサート、太白区民まつり、まつりだ秋保、秋保の雪んこまつり、フライハイおいでなど、個性ある四季折々のイベントやまつりが開催されている。
- ・ bjリーグの仙台 89ERS (センダイエイティナイナーズ) は、多くのボランティアに支えられ、その活躍は、区民に明るい話題を提供している。
- ・ 長町駅東側のあすと長町地区は都市圏南部の広域拠点として、また、地下鉄南北線富沢駅周辺では、機能的な住宅市街地を形成するため区画整理事業による整備が進められている。
- ・ 地下鉄東西線 (仮称) 動物公園駅では、駅前広場、パークアンドライド駐車場および同駅への結節ルートとなる道路の整備が進められており、同時に駅周辺のまちづくりの検討も地域と行政が連携して行われている。

(人口)

- ・ 人口は 219,539 人 (平成 22 年 7 月 1 日推計人口) であり、10 年前と比較して約 0.9% の減少となっている。15 歳未満の年少人口および 15 歳から 64 歳までの生産年齢人口が減少する一方、65 歳以上の高齢人口は大きく増加しており、少子高齢化が急速に進んでいる。
- ・ 人口は緩やかに減少していき、高齢者の割合がさらに高くなることが予想される。
- ・ 世帯数は 92,049 世帯 (平成 22 年 7 月 1 日推計人口) で 10 年前と比較して増加しているが、一世帯当たり世帯人員は約 2.4 人と 10 年前より約 0.1 人減少しており、小世帯化が進んでいる。
- ・ 外国人登録者数も比較的多く、留学生などとの交流活動も活発に行われている。

(地域づくり)

- ・ 町内会をはじめ各種の地域団体などにより、地域活性化、安全・安心、防災、地域福祉向上、健康づくり、文化、スポーツ、広瀬川や名取川などの河川愛護活動に代表される地域環境の保全・活用、また、乗合タクシーの運営による生活交通の確保など、地域特性を反映した多様な活動が行われている。
- ・ 利用者の減少からバス運行の減便・廃止傾向にある地域や、急坂・道路狭あいなど交通の不便な地域においては、公共交通を必要とする高齢者に対する地域に根ざした生活交通を確保する取り組みの拡充が求められている。
- ・ 発生が予測される宮城県沖地震や集中豪雨などによる被害を軽減する防災・減災対策の強化が求められており、併せて地域の防災意識や防災力を高めていく必要がある。
- ・ 太白区連合町内会長協議会など諸団体が連携して災害対策を自主的に検討し、その結果を公表するなど、災害に強いまちづくりを目指して活発な活動を行っている。

区の将来ビジョン

太白区は豊かな自然環境に恵まれ、多くの歴史と伝統を継承し育んできた。この地に住み、働き、地域づくりを担ってきた区民が、これからも支え合い、住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けることができるよう、目指すべき4つの「まち」の姿を、太白区の将来ビジョンとして掲げる。

災害に強く、安心で健やかに暮らせるまち

豊かな地域資源と文化・スポーツ・芸術が息づく潤いのあるまち

交通利便性が高く、充実した住環境を形成・持続するまち

自然の恵みや豊かさが実感でき、魅力ある都市空間を有するまち

上記のビジョンの実現に向けて、区民による主体的な地域づくり活動を支援し、地域の特性に応じたきめ細かな施策を進めていく。

(2) 区の主な施策の基本方向

「災害に強く、安心で健やかに暮らせるまち」をめざして

- ・ あすと長町地区に救命救急、小児救急、災害時医療などの政策的な医療を実施する市立病院の整備を進める。
- ・ 食品に対する信頼を築き、豊かな食生活を支えるために、地場産物や地域の食文化について区民の理解を深めるとともに、消費者の視点に立ちながら、事業者の自主管理による取り組みを推進しつつ、消費者、食品の製造・加工・販売業者、行政間の相互理解と連携協力による食品安全性の確保に関する取り組みを進める。
- ・ 区民が交通事故や犯罪に巻き込まれないまちづくりのため、広報誌やホームページによる情報提供などの広報活動や各関係機関との連携を図りながら、交通安全、防犯対

策を進める。

- ・ 住民参加による防災訓練の充実などにより、防災意識の向上を図りながら、地域防災力を高めていくとともに、自主防災組織などの関係機関・団体との連携により防災体制や災害時の連絡体制、災害時に援護が必要な方への支援体制の強化を図る。合わせて、公共施設やライフラインなどの耐震化、戸建住宅耐震化支援や雨水排水施設の充実を図り、災害に強いまちづくりを推進する。
- ・ 40代、50代男性の健康づくりを重点的に行うため、健康診査の受診率の向上に向けて取り組むとともに、地域や職場などと連携した心身の健康づくりを進める。
- ・ 高齢者が活動的に暮らせるよう、区社会福祉協議会、地区民生委員児童委員協議会、老人クラブ、地域包括支援センター、介護予防自主グループと連携して、健康づくりや高齢者の豊かな経験を生かした社会参加を推進する。
- ・ 高齢者のさまざまな相談へ速やかに対応できる支援体制の整備を図る。
- ・ 認知症についての理解を広げるための取り組みを、地域包括支援センターや医療機関などと連携して進める。
- ・ 障害者支援事業者、地区民生委員児童委員協議会などの地域関係団体と連携し、障害者のさまざまなニーズに対応可能な支援体制の整備を進める。
- ・ （仮称）南部発達相談支援センターと地域への親子通園施設の整備を進め、障害児とその家族の地域生活を支える。
- ・ 子どもを安心して生み、育てることができる環境づくりや子どもへの虐待防止を図るため、児童館、子育て支援センター、区社会福祉協議会、育児グループなどの子育て支援団体と連携して、子育てふれあいプラザ（のびすく）長町南などを中心に、身近なところで相談できる場づくりなどを進める。
- ・ 児童館の整備や保育サービスの充実により、子どもと子育て家庭を支援する。

「豊かな地域資源と文化・スポーツ・芸術が息づく潤いのあるまち」をめざして

- ・ 区内の貴重な自然や歴史的・文化的資源の発掘・活用を図り、区民による学び・伝える活動を促進し、豊かな歴史・文化・スポーツ・芸術の薫るまちづくりを進める。
- ・ 区内に数多くある地域資源や地域活動などの紹介などを通じて、区民をはじめ区を訪れる多くの人たちも楽しめるような交流の機会づくりを行う。
- ・ 郷土芸能である田植踊など、地域に受け継がれている伝統文化の伝承を支援する。

「交通利便性が高く、充実した住環境を形成・持続するまち」をめざして

- ・ 都市計画道路などの幹線道路の整備を進め、鉄道へのアクセス向上を図る。
- ・ 地域内の暮らしを支える道路整備や、道路照明施設などの整備を進め、日常生活の安全・安心の確保と利便性の向上を図る。
- ・ 路線バスの維持、路線バス以外の生活交通の確保に向け、市民協働による取り組みを進める。
- ・ これまで整備してきた道路・公園などの施設について、適切な維持管理を進める。
- ・ 身近な公園や緑地などについて、公園愛護協力会・ボランティアなどの市民の参加を得て維持管理を行う。

「自然の恵みや豊かさが実感でき、魅力ある都市空間を有するまち」をめざして

- ・ 都市圏南部の交通結節機能を有する長町駅周辺を中心に、駅前広場など一体となった地域交流の拠点機能の強化を図る。
- ・ 市民、NPO、ボランティアなどによるまちづくりへの取り組みを支援するとともに、それぞれの商店街が持つ特性を生かしながら、商店街の自主的な取り組みを支援する。
- ・ 減農薬栽培などの特色ある農産物の生産などを推進し、市街地に近接する立地条件を生かした農業の展開を図る。
- ・ 朝市や市民農園、収穫祭など、農業生産者と区民が直接触れ合い交流する場づくりを支援し、地域農業の振興を図る。
- ・ 秋保温泉、二口溪谷などの豊かな自然、風土などが調和した観光資源の環境整備を行い、市民や本市を訪れた人たちが四季を通じ憩うことができる場の充実を図る。
- ・ 区内にある歴史的・文化的資源や名勝などのつながりを強め、観光資源としての魅力を向上させるとともに、地域活性化イベントなどの開催を促進して、交流人口の拡大を図る。

《「区民主体の地域づくり」を進めるために》

太白区は、伝統的な地域コミュニティが健在な地域、新旧住民が混住している地域、新住民の多い地域、戸建住宅がほとんどの地域、マンションやアパートの多い地域など、地域の態様はさまざまであり、施策の展開に当たっては、その地域が持っている特色、風土、文化、歴史を踏まえて、まちづくり活動や地域の課題解決に向けた取り組みを支援する必要がある。

- ・ 地域活動の中心となる町内会を支援するとともに、地区集会所の建設・維持修繕の支援や、市民センターやコミュニティ・センターの計画的な維持・補修を進めるなど、地域の活動拠点の充実を図る。
- ・ 区民が主体的に取り組む活動に対して、地域の特性を踏まえた支援を進めるため、区役所の支援機能の強化を図る。
- ・ 市民センターと連携して、地域づくりの担い手の育成、歴史・文化・伝統を生かした区の魅力を向上させる取り組みを進める。
- ・ 名取川や広瀬川などにおいて、地域住民により自発的に行われている河川環境美化活動を支援する。
- ・ 地域ニーズを的確に捉え、最善の行政サービスを提供できるよう、職員の資質向上を図り、区民に信頼される身近な区役所づくりに取り組む。
- ・ 区民が必要な情報をいつでも入手できるよう、ホームページなどを活用した情報提供を行う。

(3) 圏域ごとの主な施策の基本方向

南部拠点地域

(特性と動向)

- ・ 本市の南部広域拠点として、区民や都市圏住民の生活拠点として大きな役割が期待さ

れている。

- ・ 長町駅および富沢駅周辺では、市街地整備が進んでおり、ＪＲ駅、地下鉄駅を中心とした交通体系の構築が必要である。
- ・ 業務系施設や住宅などの集積が進む一方で、新旧の市街地が混在し、老朽化した生活基盤も多いことから、地域全体の防災力を高めるため、計画的な改修、更新が必要である。
- ・ 長町駅前周辺から広瀬橋まで続く旧国道４号沿いには、古くから商店街が形成され、小売業、飲食業やサービス業など多様な店舗が集積し、長町地区の中心的な商業機能を担っている。
- ・ 区内には市内の４割を超える埋蔵文化財が集中しているが、その中でも富沢遺跡や郡山遺跡などの大規模な埋蔵文化財が存在している。

（主な施策の基本方向）

- ・ 長町駅周辺の市街地整備を推進し、都市圏南部の生活拠点にふさわしい魅力的で個性的な都市機能を誘導する。
- ・ 富沢駅周辺においては、区画整理事業などにより、市街地整備を促進するとともに、交通結節点としての機能の強化を図る。
- ・ 生活基盤の改修等に合わせて耐震化を進め、地域全体の防災力を高める。
- ・ 地域住民と行政との協働により区民が集える空間・広場の有効活用を図るとともに、地域イベントの支援などを通じ、新たな賑わいの創出やまちの魅力を高めることで商店街の活性化を図る。
- ・ 郡山遺跡などの保存を図るとともに、富沢遺跡保存館など地域の歴史的資源を活用する生涯学習、学校教育などを推進する。
- ・ 名取川、広瀬川、笹川などの水辺空間を活用し、区民がより自然とのふれあいを体験できる場の提供を図る。
- ・ 若い世代の地域活動への参加・交流を促進することにより、地域の活性化を図る。

名取川右岸地域

（特性と動向）

- ・ 幹線道路や南仙台駅周辺を中心に、市街地開発により商業施設の集積が進んでいる。
- ・ 市街地の分断および交通渋滞の解消に向け、南仙台駅を結節拠点とした交通体系の構築と幹線道路および生活道路などの整備を求める声が多くある。
- ・ 市街地の形成が、水害の心配される名取川下流域の低い土地にも進んでいる。

（主な施策の基本方向）

- ・ 幹線道路の整備を進め、南仙台駅を結節点とした交通体系の構築などを図る。
- ・ 雨水排水施設の整備を図り、浸水に対する地域全体の防災力を高める。
- ・ 安心して子育てができるよう、地域で見守り、支援していく環境づくりを進める。
- ・ 地域に住み始めた時期の異なる住民同士の交流や子どもから高齢者までの幅広い世代間の交流の機会づくりを促進するとともに、地域活動への支援を通じ、地域の活性化

を図る。

- ・ 柳生和紙の紙漉などの区内の伝統文化や自然、歴史的資源を活用し、子どもたちの地域理解を進めるとともに、地域への愛着を涵養する。

丘陵住宅地域

（特性と動向）

- ・ 昭和 30 年代半ば以降、丘陵地に外延的に開発された団地が多く、高さのある玉石積みや二段擁壁、道幅が狭小な個所も見受けられる。また、住民の高齢化も進んでおり、生活基盤の機能の低下、コミュニティの衰退などが懸念される。
- ・ 東西線の開業に向け、（仮称）動物公園駅周辺、他の地域や拠点を結ぶ道路やバス路線などの整備が求められている。
- ・ 防災に関して、町内会や大学、地域団体の連携による取り組みが行われているほか、町内会においても、災害時要援護者マップの作成や耐震対策・診断の勉強会を開催するなどしており、こうした先導的・主体的な活動を促進していく必要がある。
- ・ 八木山の松並木に代表される優れた街並み・景観の保全が求められている。

（主な施策の基本方向）

- ・ 都市計画道路などの幹線道路や（仮称）動物公園駅の駅前広場を整備し、駅を中心とした交通体系の構築を図る。
- ・ （仮称）動物公園駅に隣接する八木山動物公園の整備を進めるとともに、地域と行政との協働により駅周辺のまちづくりを推進する。
- ・ 大年寺山公園の整備を進め、地域に残る貴重な緑地を保全する。
- ・ 豊かな自然環境を生かした優れた街並み・景観の保全を図る。
- ・ 戸建住宅などの建て替えの際に、危険擁壁などの改善や狭小道路解消の誘導を図るとともに、地域住民の防災意識を高め、地域全体の防災力の向上を図る。
- ・ 路線バスを含めた生活交通の確保に向け、市民協働による取り組みを進める。
- ・ 地域と行政との協働による区民の安全・安心に向けた取り組みを進めるとともに、世代間交流などの地域活動への支援を通じ、地域コミュニティの活性化を図る。

太白山周辺地域

（特性と動向）

- ・ 太白山、名取川などの山あい、水辺の豊かな自然や里山が多く残っており、太白山自然観察の森などの活用が図られている。
- ・ 生出地区や坪沼地区などには、地域住民が支え、盛り上げてきた、古くから地域に根ざした祭り・文化がある。
- ・ 地域資源のより一層の活用、自然と都市が調和した優れた住環境の維持を図るため、地域主体のまちづくりが求められている。
- ・ 坪沼地区においては、生活交通の維持が求められている。
- ・ イノシシなどによる農作物被害が急増しており、有害鳥獣対策の強化が求められている。

(主な施策の基本方向)

- ・ 太白山周辺をはじめとした豊かな自然環境、里地里山の保全を図るとともに、自然とのふれあいの場や環境教育の場として、太白山自然観察の森などのより一層の活用を図る。
- ・ 各世代の交流により健康で安心して暮らせる取り組みを進める。
- ・ 坪沼地区においては、市民協働により、地域に根ざした持続可能な生活交通の確保を図る。
- ・ 市民と農業のふれあいを生かしたまちづくりの取り組みを促進する。
- ・ 四季折々に開催されている地域イベントなどへの支援を通じ、地域の活性化を図る。

秋保地域

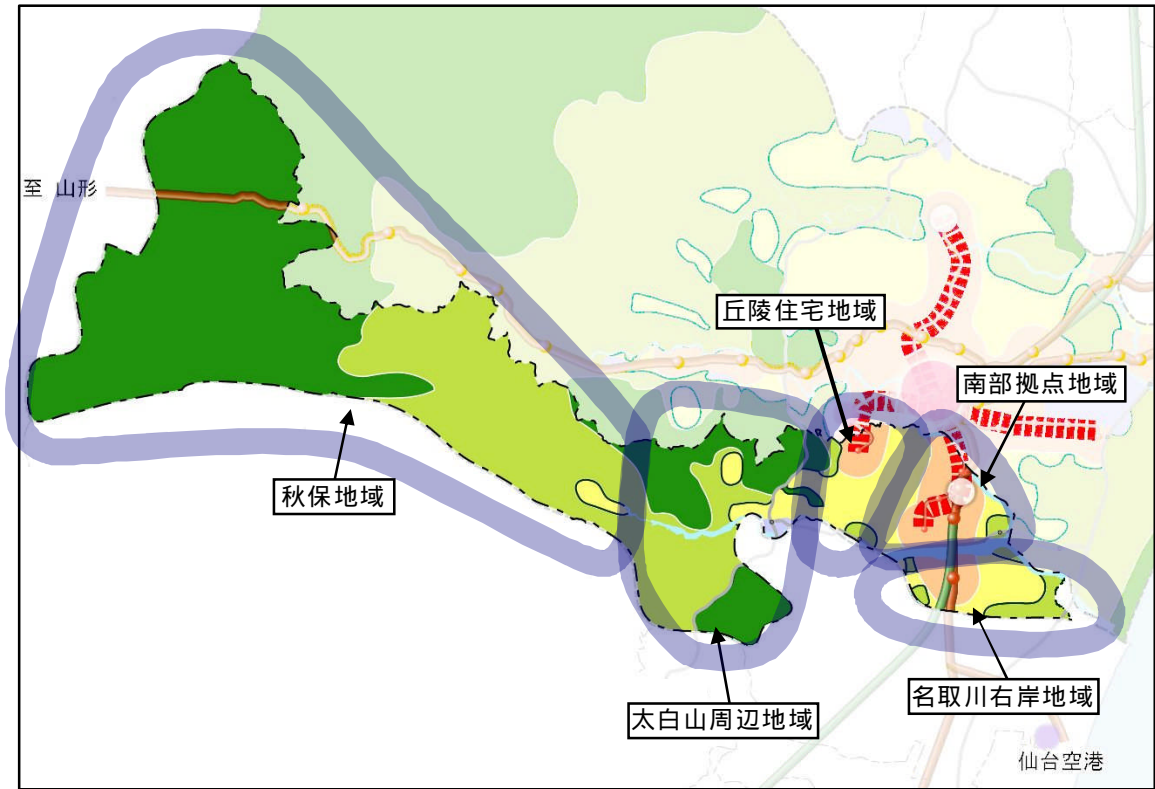
(特性と動向)

- ・ 東北有数の秋保温泉郷をはじめ秋保大滝や二口溪谷などを有する観光地として、大規模な宿泊施設や観光資源の整備が進んでいる。
- ・ 秋保温泉郷や二口溪谷などへの観光客数の減少傾向が続いており、観光資源のさらなる魅力向上の取り組みなどを促進し、地域の活性化を図る必要がある。
- ・ 農業を中心としたまちづくり活動への支援を通じ、地域を支える農林業の活性化が求められている。
- ・ 秋保の田植踊に代表される多くの優れた民俗文化が継承されているが、少子高齢化などによる後継者問題が発生しており、継承活動への支援が必要である。
- ・ イノシシなどによる農作物被害が急増しており、有害鳥獣対策の強化が求められている。
- ・ 県道秋保温泉愛子線の整備により、ＪＲ仙山線愛子駅方面への移動が容易となり、日常生活の圏域が愛子および周辺地域にも広がっている。
- ・ 地域内においては高齢化率が高く、特に75歳以上の高齢者が多い。

(主な施策の基本方向)

- ・ 新鮮で安全な農産物の特産品化や地場流通の拡大などにより、生産販売体制の強化を図れるよう支援する。
- ・ 既存観光資源の保全と活用を図るとともに、農商工業との連携や地域の自然環境を生かした健康づくりイベントの開催など、新たな視点での誘客対策を支援する。
- ・ 防護柵の設置や猟友会の活動支援など、有害鳥獣対策の強化を図る。
- ・ 秋保の田植踊などの民俗文化が継承されるよう、地域に育まれた民俗芸能の形や継承団体の活動状況などに応じた支援を地域と一体となって進める。
- ・ 路線バスの維持など、生活交通の確保に向け、市民協働による取り組みを進める。
- ・ 高齢者が住み慣れた地域の中で安心していきいきと暮らせる支援体制づくりを進める。
- ・ 地域の地形、気候条件に合わせた道路、防災、交通などの生活環境の整備を行うとともに、ボランティア道路除草活動に見られるような地域に根ざした市民協働による取り組みを進める。

(4) 区の地域区分図



	自然環境保全ゾーン		都心		東北新幹線
	集落・里山・田園ゾーン		広域拠点(泉中央地区・長町地区)		鉄道在来線
	市街地ゾーン		都市軸 (地下鉄南北線沿線・東西線沿線)		地下鉄(南北・東西線)
			機能拠点 国際経済流通拠点 (仙台港周辺地区)		自動車専用道路
			学術文化交流拠点 (青葉山周辺地区)		行政界(市域界)
	工業・流通・研究区域				

泉 区

(1) 区の将来ビジョン

区の特性と動向

- ・ 泉区は本市の北部に位置し、面積は約 146 平方キロメートルである。
- ・ 地下鉄南北線泉中央駅を中心とする「北部拠点地域」、泉ヶ岳と七北田川、田園地域を中心とする「泉ヶ岳および西部田園地域」「丘陵住宅地域」「北部産業地域」で構成され、本市北部の広域拠点としての都市機能と豊かな自然環境との調和が図られている。
- ・ ベガルタ仙台の活躍や大規模アウトレットモールの開業などにより、広域的な集客力と新たな活気の創造が期待されている。
- ・ 都市圏北部の工業団地への大規模製造業（自動車・半導体関連）の生産拠点の立地により、雇用の促進と定住者の増加が期待されている。
- ・ 区内および近隣地に 7 つの大学・短期大学があり、学生や若者の多いまちとして、学都の重要な一翼を担っている。

(概況)

- ・ 主要な公共交通機関は地下鉄とバスであり、区内には 3 つの地下鉄駅がある。地下鉄南北線泉中央駅と八乙女駅がバスターミナルとなっており、この 2 駅を起点に多数のバス路線が区内に広がっている。
- ・ 主な幹線道路は、国道 4 号、仙台北環状線、国道 457 号等である。泉インターチェンジと泉パーキングエリア・スマートインターチェンジにより東北自動車道等へのアクセスも良好である。
- ・ 地下鉄泉中央駅周辺には、多数の公共施設や、商業施設、中高層マンションなどが集積し、充実した都市機能を有している。
- ・ 地下鉄駅や主要幹線道路沿線には商業施設、中高層マンションなどの集積が進んでいる。
- ・ 仙台スタジアムや泉総合運動場、スポパーク松森や民間スキー場、ゴルフ場、各種スポーツクラブなど、スポーツを楽しむ環境が充実している。
- ・ 区の西端は泉ヶ岳を中心とした自然豊かな山岳地帯で、西部一帯には田園が広がり、泉ヶ岳を水源とする七北田川が区内を東西に流れている。
- ・ 丘陵地帯には大小の住宅団地が造成され、丘陵住宅団地群を形成している。住宅団地の一部には広い公園緑地があり、地域のシンボルともいえるべき貴重な自然として市民に親しまれている。
- ・ 区の北端には工業流通団地として、泉パークタウンインダストリアルパークおよびソフトパークが立地し、先端産業をはじめとする企業が集積している。
- ・ 広域拠点としてのさらなる求心力の向上のため、魅力ある都市機能の集積と賑わいの創出が求められている。
- ・ 住宅団地などの開発に伴い整備された道路、公園等の生活基盤が経年化しており、適切な維持・改修が求められている。

（人口）

- ・ 人口は211,280人（平成22年7月1日推計人口）で、10年間で約5.8%の増加となっている。世帯数は、85,750世帯で、10年間で約16.9%の増加となっている。
- ・ 15歳未満の年少人口と15歳から64歳までの生産年齢人口が減少するとともに、65歳以上の高齢人口が大幅に増加しており、高齢化が急速に進行するとともに、少子化などに伴う人口減少が見込まれる。
- ・ 高齢人口はほぼ全域で大幅に増加しており、年少人口や生産年齢人口が増加しているのは北部拠点地域のみである。
- ・ 西部田園地域の高齢化が進んでおり、丘陵住宅地域においても高齢化が加速していくものと予想される。

（地域づくり）

- ・ 区内では泉区まちづくり推進協議会と各種団体が連携協力し、市民協働による七北田川クリーン運動や泉ヶ岳の利活用推進活動など、さまざまな取り組みが行われている。
- ・ 地域住民による将監沼の整備事業やNPOによる地域福祉サロン活動など、地域資源や地域のニーズと結びついたさまざまな市民活動が活発に行われている。
- ・ 区の町内会加入率は市内で最も高く、町内会が地域コミュニティの核となって、さまざまな地域活動が活発に行われている。
- ・ 総合型地域スポーツクラブが区内3地区において設立されており、スポーツを通じた地域づくりが盛んである。
- ・ 高齢単身世帯の増加など地域環境が大きく変わろうとしており、より積極的な地域コミュニティの活力維持・向上のための取り組みや地域福祉の充実が求められている。

区の将来ビジョン

「これからも選ばれるまち」

泉区は都会的な利便性や文化性に恵まれており、豊かな自然環境、良好な生活環境、活発な地域コミュニティ、充実した教育環境やスポーツ環境など、特筆すべき数多くの資源を有している。その高いポテンシャル（能力・可能性）は大きな財産であり、これら有形無形の地域資源の魅力の再発見とポテンシャルの積極的な活用を図りながら、誰もが住みたいと思う「これからも選ばれるまち」を目指して次のようなまちづくりを進める。

市民活動が輝く「賑わいのまち」

多様な市民の発想を生かした市民主体のさまざまな活動が行われ、賑わいと活力が生まれるまちを目指す。

泉ヶ岳、七北田川などの自然を守り親しむ「憩いのまち」

泉ヶ岳、七北田川などの豊かな自然環境を保全し、身近な公園緑地も含め、市民に親しまれ、ボランティア活動の場としても積極的に活用される憩いのまちを目指す。

高齢者がいきいきと暮らし、子育てに優しい「共生のまち」

高齢者や障害者、子育て世帯等が地域の中で、健康でいきいきと暮らせる、思いやりと安らぎに満ちた助け合いと共生のまちを目指す。

災害に強く、犯罪・事故の少ない「安全・安心のまち」

日頃から地域ぐるみで地震などの災害に備える高い地域防災力を持つとともに、犯罪や交通事故が少ない安全・安心のまちを目指す。

(2) 区の主な施策の基本方向

泉区では、さまざまな地域活動、市民活動が活発に行われている。将来ビジョンを実現していくためには、これらの活動の源となっている市民の力を将来にわたってさらに高めていくことが必要である。市民の力の主体である市民、町内会などの地域団体、NPO、事業者などと行政が連携協力し、地域活性化と地域課題の解決に積極的に取り組んでいく。

市民活動が輝く「賑わいのまち」

- ・ 市民の発想を生かし、市民主体の多彩なイベントや情報発信を通じて求心力を高め、定住者、ビジター、リピーターの増加を促進する。
- ・ 学生を中心とした若者独自の発想と行動力を生かした、地域活性化やまちづくりの取り組みを推進する。
- ・ 地域の活性化や地域課題解決のため、町内会を核とする多様な市民と市民センター、学校等の連携を強化する取り組みを支援する。
- ・ 泉中央駅ペDESTリアンデッキ等を積極的に活用してさらなる賑わいの創出を図る。

泉ヶ岳、七北田川などの自然を守り親しむ「憩いのまち」

- ・ 泉ヶ岳少年自然の家を移転・改築して、豊かな自然とふれあうさまざまな市民活動の拠点としての利用を促進する。
- ・ 公園緑地や河川等を利活用する市民のボランティア活動を支援し、自然とのふれあいや住民相互の交流を促進する。
- ・ 農地の保全を図り、市民農園の活用や朝市の開催などを通じて、地産地消や市民と農業のふれあいを促進する。

高齢者がいきいきと暮らし、子育てに優しい「共生のまち」

- ・ 高齢者の健康づくりや介護予防のための軽運動をはじめ、多世代が交流できる泉ふれあいエクササイズ、サロン活動などを推進する。
- ・ 地域包括支援センターや民生委員、関連事業所との連携を強化し、高齢者と障害者の地域生活を支援する。
- ・ 認知症に対する理解を広めるとともに、地域包括センターや医療機関、民生委員等の連携を強化し、認知症の人とその家族を支援する。
- ・ 公的保育サービスを拡充するなど、保育所待機児童の早期解消に努める。
- ・ 子育てふれあいプラザ（のびすく）泉中央や子育て支援センター、児童館等が連携協力し、育児中の親や育児グループ等の支援を行うなど、子育てしやすい地域づくりを推進する。

災害に強く犯罪・事故の少ない「安全・安心のまち」

- ・ 自主的な地域防災訓練の支援と拡大を図るとともに、防犯活動重点地区やモデル地区の活動を広めることにより、地域の防災力と防犯力を高める。
- ・ 警察、消防など、関係機関と連携して、交通安全や火災予防を推進する。
- ・ 歩道、街路灯、通学路、公園、集会施設、橋りょうの整備・改修および維持・修繕を進める。
- ・ 泉中央駅ペDESTリアンデッキの適切な維持・管理を進め、市民生活の安全性、快適性を確保する。

（３）圏域ごとの主な施策の基本方向

北部拠点地域

（特性と動向）

- ・ 地下鉄泉中央駅を中心に、幹線道路などが結節する市北部の広域拠点であり、商業・業務機能、中高層マンションなど、都市機能の集積が進んでいる。
- ・ 区内においては、高齢者の比率は低く、核家族や若者が多い地域である。
- ・ 広域的な集客・交流拠点としての求心力の維持・向上が求められている。
- ・ 区内においては、町内会加入率が比較的低く、実状に即したコミュニティづくりが求められている。
- ・ 犯罪の抑止が求められている。
- ・ 駐車場用地も少なからず存在しており、土地の高度利用が求められている。

（主な施策の基本方向）

- ・ 都市圏の活動を支える広域拠点にふさわしい魅力的で個性的な都市機能の誘導を図る。
- ・ 泉区役所、七北田公園、泉総合運動場周辺を一体として、スポーツ・レクリエーション・文化イベントなど、多様な利活用を促進する。
- ・ 商工団体や学生、NPOなど多様な市民の発想を生かした市民主体の多彩なイベントを支援し、泉中央地域の活性化を促進する。
- ・ マンション単位の町内会の形成促進などにより、地域コミュニティ活動を支援する。
- ・ 泉中央駅ペDESTリアンデッキの適切な維持・管理を進める。
- ・ 関係機関、関係団体との連携を強化して、落書きや違法駐車等の迷惑行為の防止、犯罪予防のための啓発活動を行うなど、犯罪の起きにくい環境整備を進める。

泉ヶ岳および西部田園地域

（特性と動向）

- ・ 泉ヶ岳に代表される豊かな自然環境と寺社、史跡、民俗芸能などの歴史的・文化的資源に恵まれている農業を中心にした地域である。
- ・ 区内においては、高齢者比率が高く、世帯構成員数は比較的多い。
- ・ 泉ヶ岳はスキーや登山、ハイキングなど、市民のスポーツ・レクリエーションの拠点となっているものの、スキー場利用者数は減少傾向にある。
- ・ 泉ヶ岳アウトドアスポーツ大会には全国から千名規模の参加がある。

- ・ 根白石地区は昔ながらの町並みを残しているとともに、伝統七夕などの活動が行われている。
- ・ 泉ヶ岳の自然環境の保全と調和を基本とした利活用が求められている。
- ・ 農業の担い手育成や耕作放棄地の活用、有害鳥獣対策が求められている。

（主な施策の基本方向）

- ・ 泉岳少年自然の家の移転・改築事業を契機とし、市民、NPO、関係団体の連携により、泉ヶ岳の魅力の再発見と効果的な情報発信を行い、多くのビジターを獲得する。
- ・ 泉ヶ岳の利活用を促進するため、市民主体の芳の平下刈り活動や自然観察会などを継続的に実施する。
- ・ ミズバショウ群生地を保全を図る。
- ・ 農地の保全を図るとともに、地産地消の観点から、市民農園の活用や朝市の開催をはじめ、市民が農業とふれあう機会の拡大を図る。
- ・ 野生鳥獣による農作物等被害の低減化を図る。
- ・ 歴史的・文化的資源、農業資源等を生かし、交流人口の拡大や地域活性化につながる活動を促進する。

丘陵住宅地域

（特性と動向）

- ・ 東西に広がる丘陵地に昭和30年代から近年まで順次開発されてきた大小の住宅団地が連坦する地域である。
- ・ 地下鉄八乙女駅周辺、国道4号や仙台北環状線の沿線には商業施設や中高層マンションの集積が進んでいる。
- ・ 地域コミュニティの活力の維持、向上が求められている。
- ・ 高齢者が元気で安心して暮らせる地域づくりが求められている。
- ・ 子育て家庭の孤立を防ぐ子育てしやすい地域づくりが求められている。
- ・ 道路、公園、集会施設などが経年化しつつあり、生活基盤の適切な維持・改修が求められている。
- ・ 事故や犯罪の少ない、安心して暮らすことのできるまちづくりが求められている。
- ・ 地震をはじめとした自然災害に備え、災害に強い地域づくりが求められている。

（主な施策の基本方向）

- ・ これからも選ばれる街であり続けるため、良好な街並みの維持や積極的な情報発信等に努める。
- ・ 市民センター、関係機関と連携して、地域住民やNPOによる地域活性化や地域課題解決の活動を積極的に支援する。
- ・ 誰もがスポーツや軽運動を楽しめる環境づくりを促進する。
- ・ 高齢者の健康づくり、介護予防、孤立防止などを目的とした軽運動を推進する。
- ・ 多世代が交流できる泉ふれあいエクササイズ、サロン活動などを推進する。
- ・ 子育て支援センターや児童館、児童委員等が連携協力し、育児中の親や育児グループ

等の支援を行うなど、子育てしやすい地域づくりを推進する。

- ・ 地域ボランティアと連携し、公園緑地等の施設を管理し、世代を超えた住民相互の交流や健康増進のための憩いの場づくりを進める。
- ・ 地域と連携して、公園緑地等の修繕・整備を進める。
- ・ 住宅団地開発に伴い整備された道路、公園、集会施設の適切な維持・改修等を進める。
- ・ 地域の自主防災訓練や防犯・防火・交通安全運動を支援する。
- ・ 歩道や通学路、街路灯を整備するとともに、関係機関、関係団体の連携を強化し、安全・安心の地域づくりを進める。

北部産業地域

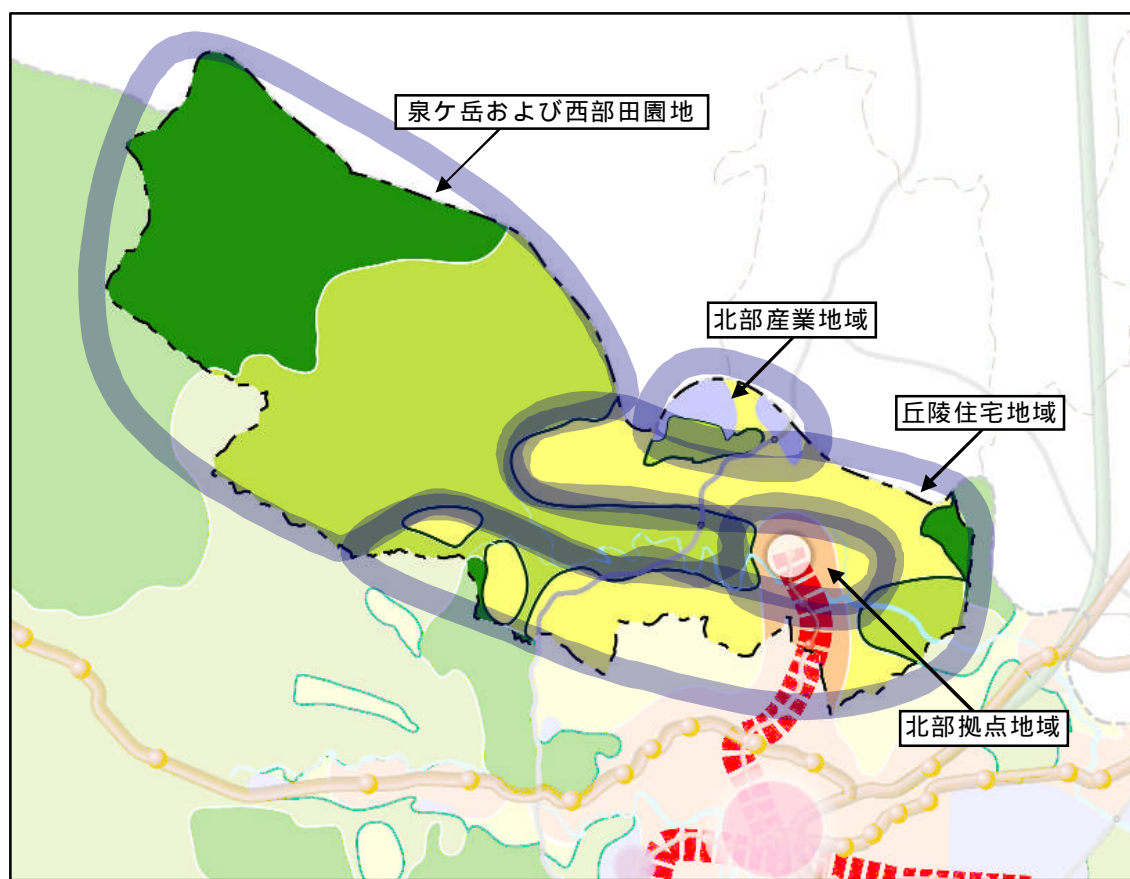
(特性と動向)

- ・ 工業流通団地として、泉パークタウンインダストリアルパークおよびソフトパークが立地している。
- ・ インダストリアルパークには、公設試験研究機関である宮城県産業技術総合センターにおける技術支援体制も整っており、食品・印刷などの工場のほか、MEMSデバイスの試作工場や21世紀プラザによるベンチャー企業支援など、先端技術の研究開発が盛んに行われている。
- ・ ソフトパークには、グローバルに事業展開を行っている世界的な企業が立地している。
- ・ 都市圏北部に立地する自動車・半導体関連の大規模製造業との連携が求められている。
- ・ 東北大学青葉山キャンパス地区を中心とした大学・企業の研究開発部門との連携強化が求められている。

(主な施策の基本方向)

- ・ インダストリアルパークにおける研究開発を促進する。
- ・ 仙台北部中核工業団地群、大和リサーチパーク、東北大学青葉山キャンパス地区の企業・研究所との連携を促進する。
- ・ ソフトパークへのソフトウェア業をはじめとした都市型産業の誘致を促進する。

(4) 区の地域区分図



	自然環境保全ゾーン		都心		東北新幹線
	集落・里山・田園ゾーン		広域拠点(泉中央地区・長町地区)		鉄道在来線
	市街地ゾーン		都市軸 (地下鉄南北線沿線・東西線沿線)		地下鉄(南北・東西線)
	鉄道沿線区域		機能拠点		自動車専用道路
	郊外区域		国際経済流通拠点 (仙台港周辺地区)		行政界(市域界)
	工業・流通・研究区域		学術文化交流拠点 (青葉山周辺地区)		